



Financial Release

英文リリース日本語訳

シンジェンタ 2006 年上半期業績発表

スイス・バーゼル市 2006 年 7 月 26 日発

「素早い回復と重要な戦略的進展」

- 売上は、恒常為替レート(CER)で 1%減の 52 億ドル
- 農薬の売上は、横ばいで 39 億ドル
- 新製品の売上は 22%増加して 6 億 4600 万ドル; AXIAL®と AVICTA®の上市
- 製品開発の加速: 農薬と種子の遺伝子組換え形質
- 1 株当たりの利益は、9%増加し 10.44 ドル
- 8 億 8900 万ドルを株主に現金償還

財務概要(未監査)

	合理化及び減損を除く						IFRS による報告数字			
	2006 上半期		前年同期		ドル ベース	CER	2006 上半期		前年同期	
	百万ドル	¥(億円)	百万ドル	¥(億円)			百万ドル	¥(億円)	百万ドル	¥(億円)
売上高	5201	5,995	5386	5,731	-3	-1	5201	5,995	5386	5,731
純利益 ⁽³⁾	1056	1,217	976	1,039	8		961	1,108	912	970
一株当たり利益	\$10.44	12	\$9.59	10	9		\$9.51	11	\$8.92	9

換算レート: 2006 年: \$1 = 115.26 円, 2005 年: \$1 = 106.41 円

文中の前年比は恒常為替レート(CER)による。

最高経営責任者のマイケル・プラグネルは、次のように語りました。

「殺菌剤の需要が落ち込んだ北半球で苦戦しましたが優れた業績を達成しました。新製品は AXIAL®と AVICTA®の上市成功を受けて記録的な成長を示しました。プロフェッショナル・プロダクツは 3 つのすべての事業で堅調な業績を達成、さらなる成長を遂げました。種子部門では、第一四半期に生産関係の問題が生じた NAFTA でのトウモロコシを除き、すべての分野で売上を伸ばしました。また、戦略的プロセスでも重要な進展がありました。即ち、ローン & ガーデンと野菜用種子の事業における 2 社の企業買収、農薬の製品技術交換および米国におけるトウモロコシと大豆の種子に関するパイオニア社との販売・技術契約です。引き続き経費節減を行うことにより、原油価格の高騰による影響を相殺すると共に、将来の成長への投資計画、主要業績指標の維持、および利益の増収を達成することができました。」

2006 年上半期ハイライト

売上高は、CER で1%減少しました。農薬の売上は横ばいでした。種子の売上は4%減少しました。

EBITDA は、CER で前年と変わらず 15 億 4000 万ドルでしたが、これは業務の効率化により原油関連コスト(8200 万ドル)の高騰の影響と急成長部門の販売・開発費の増加への投資を相殺したことによります。

1 株当たりの利益は、特別項目を除くと、9%向上し、10.44 ドルでした。これは、営業利益の増収と為替利益による純財務費の減少によります。

通貨：ユーロと比較して米ドルが比較的強かったため、売上が2%減少しました。EBITDA に対する最終的な影響は1%でした。

農薬：NAFTA では、主に大豆サビ病の殺菌剤の売上が落ち込んだためと、トウモロコシの栽培面積が減少したために売上が僅かに減少しました。東ヨーロッパではまたしても二桁台の伸びが達成され、これにより西ヨーロッパでの麦用殺菌剤の減少と農業助成金制度改革の影響による売上の減少が一部相殺されました。アジアパシフィックの広範囲での売上成長は、東南アジアでの力強い業績が主な要因です。ラテンアメリカでは、リスク管理と成功したマーケティング プログラムを効果的に組み合わせた結果、売上が増加しました。新製品、特にカリストR関連製品とアクタラRが又も堅調な成長を示しました。AXIALR(小麦及び大麦用除草剤)がヨーロッパとアメリカでの上市に成功しました。市場での強い受入により、販売目標を2億ドル以上に設定することになりました。EBITDA は CER で前年と変わらず 13 億 2000 万ドルでした。

プロフェッショナル・プロダクツ：シードケア、ローン&ガーデン、ホームケアの3部門全部が売上に大きく貢献し、全体の売上は18%増加しました。主な貢献はシードケア(種子処理)で、殺虫剤のクルーザーRがアメリカで堅調な伸びを示し、更にアメリカで綿花用 AVICTA®の上市に成功しました。ローン&ガーデン、特に花卉部門でも力強い業績が達成されました。この事業は7月に北米の急成長メディア企業である Conrad Fafard, Inc.を買収したことでさらに強化されました。

種子：全地域で売上が伸びましたが、例外は NAFTA で、第一四半期におけるアメリカでのトウモロコシの生産関連の問題により売上が落ち込みました。重要な戦略的提携としてパイオニア社との合併会社(GreenLeaf Genetics)の設立が合意され、アメリカの種子会社に遺伝資源や形質を幅広く提供することが可能になりました。野菜では、生鮮野菜への需要が引き続き伸びました。また Emergent Genetics Vegetable A/S の買収も完了したことにより、提供製品の幅が更に広がるものと見込まれます。花卉の売上は僅かに増加しました。ダイバース・フィールド・クropp(多様化畑作物)部門は、主として東ヨーロッパでの油料作物への需要により成長機運を維持しました。EBITDA は、CER で4%減少し、2億7500万ドルでした。

R&D パイプライン (開発途上製品): 農薬では、デュポン社から新規殺虫剤 RynaxypTM の実施権の許諾を受けたことを含め、製品開発は順調に進んでいます。この新規殺虫剤については最大 2 億ドル以上の売上を予想しており、2008 年に上市を予定しています。また、2 種類の殺菌剤 520 と 524 が重要過程を終え、開発後期の段階に入りました。種子では、トウモロコシでの形質スタック品の開発が 2008 年に向けて順調に進められています。更に、2008 年から、数種類の第 2 世代形質の上市を計画しています。それらには、高品質バイオエタノール製造用のアミラーゼ、パイオニア社からライセンスを受けた大豆用の除草剤耐性形質 OptimumTM GATTM、トウモロコシ用チョウ目殺虫剤、耐乾性トウモロコシが含まれます。

業務改善: 今期のリストラ費と減損の総額は、1 億 3000 万ドル(キャッシュ:7000 万ドル、ノンキャッシュ:6000 万ドル)でした。その大部分は 2004 年 2 月に公表したストリームライン・グローバル・オペレーション(世界的な事業の合理化)に関するものでした。第一四半期での節減は 1 億 600 万ドルで、2008 年末までに最高の節減額として 4 億 2500 万ドルが見込まれています。リストラ費としては、3 億 5000 万ドルのノンキャッシュを含め 2004 年から 2008 年までにおよそ 8 億 5000 万ドルが見込まれています。

キャッシュフローとバランスシート: 売上率としての平均運転資本率は、在庫の増加により前年より高めの 42% (2005 年は 39%) でした。8 億 1000 万ドルの固定資本支出は 1 億 900 万ドルの減価償却費を下回りました。

課税: 今期の基礎税率は 22% (2005 年は 24%) でした。中期的に、税率は 20% 代半ばから前半に留まる見通しです。

株主に対する現金償還: シンジェンタは、2006 年上半期に自社株買戻し計画を継続し、2 月に公表したプットオプション制度により 3 億 3000 万株を買戻しました。配当金総額 2 億 6000 万ドルを額面割引という形で 7 月 11 日に支払いました。2006 年現在までに株主に支払った総額は 8 億 8900 万ドルでした。2004 年 5 月からの現金償還総額は 16 億ドルでした。2005 年に買い戻した 2 億 3000 万株は 7 月 6 日に消却しました。

見通し

最高経営責任者マイケル・プラグネルは、次のように述べています。

「シンジェンタには将来的にすべての事業分野で成長する機会が無数にあります。市場シェアの獲得を続けること、農薬のパイプライン(開発途上製品)に期待できる可能性があること、アメリカのトウモロコシ種子用の遺伝子組換え形質が増えつつあることが、コスト削減の実施と相俟って、2008 年までに二桁台の一株当りの利益を達成する自信をますます高めてくれます。」

シンジェンタは、革新的な研究と技術とにより持続可能な農業を約束する、世界のアグリビジネスをリードする企業です。農薬の分野では世界第2位、高付加価値種子の分野では、世界第3位にランクされています。2005年度の売上高は約81億ドル、世界90カ国以上で事業を展開し、約1万9000人の従業員を擁しています。シンジェンタは、スイスとニューヨークの株式市場に上場しています。さらに詳しい情報は、インターネットwww.syngenta.com (英語)または、www.syngenta.co.jp (日本語)をご覧ください。

農薬

製品群	2006年 上半期		2005年 上半期		現地通貨 %	恒常為替 レート %	第2四半期				現地通貨 %	恒常為替 レート %
	百万ドル	億円	百万ドル	億円			百万ドル	¥(億円)	百万ドル	¥(億円)		
選択性除草剤	1,313	1,513	1,351	1,438	-3	-1	703	810	736	783	-5	-5
非選択性除草剤	422	486	391	416	+8	+8	255	294	228	243	+12	+11
殺菌剤	1,065	1,228	1,201	1,278	-11	-8	526	606	605	644	-13	-12
殺虫剤	602	694	601	640	-	+3	307	354	296	315	+4	+5
ブイェーションナル・プロダクト	490	565	419	446	+17	+18	246	284	191	203	+29	+29
その他	24	28	24	26	-2	+2	7	8	0	0	-	-
合計	3,916	4,514	3,987	4,242	-2	-	2,044	2,356	2,056	2,188	-	-

換算レート:2006年:\$1=115.26円、2005年:\$1=106.41円

文中の前年比は恒常為替レート(CER)による。

種子

製品群	2006年 上半期		2005年 上半期		現地通貨 %	恒常為替 レート %	第2四半期				現地通貨 %	恒常為替 レート %
	百万ドル	億円	百万ドル	億円			百万ドル	¥(億円)	百万ドル	¥(億円)		
トウモロコシ及び大豆	708	816	791	842	-10	-9	210	242	220	234	-4	-4
多様化畑作物	242	279	242	258	-	+6	83	96	84	89	-1	-
野菜・花卉	370	426	376	400	-2	+2	181	209	184	196	-1	-
合計	1,320	1,521	1,409	1,499	-6	-4	474	546	488	519	-3	-2

換算レート:2006年:\$1=115.26円、2005年:\$1=106.41円

文中の前年比は恒常為替レート(CER)による。

お問い合わせ先

シンジェンタ ジャパン株式会社

広報 大塚 真理子

電話 03-6221-1001

ファクシミリ 03-6221-1052

〒104-6021 東京都中央区晴海 1-8-10 オフィスタワー X21 階